

朝日汙過材株式会社

会社案内
2024年10月

視線の先に見えるもの。それは人と自然。



www.asahiro.co.jp

朝日汙過材株式会社

〒509-5111 岐阜県土岐市肥田浅野双葉町1-1-1
TEL:0572-53-0201

ASAHIROKAZAI CO.,LTD

CORPORATE PROFILE

製品開発の基本は、 人と地球への優しさです。

今や人々は生活の中にデザイン、カラー、フォルムに加え、人にやさしい環境を求めています。

当社では、どこまで人にやさしくなれるかという視点のもと、
情報化・技術革新・個性化の3つをテーマとした製品開発を推進。

情報化の面では、経営資源としてますます大きなウエイトを占める情報をいかに早くキャッチし、
その情報の質の選択をいかに正確に行い、限りある資源を追及しています。

また技術革新では、新素材の研究に一層力を注ぐとともに、新プロセスの開発を促進。

さらに個性化の面では、価値観の変化をいち早くとらえることで、
製品・サービスに当社独自の ”個性” という付加価値を加えていきたいと考えています。

こうした3つのテーマをバランスよくクリアし、個性ある技術を提供することこそ、
地球や人にやさしい環境づくりに貢献するものだと確信しています。

次を見つめることが、 私たちの社会貢献です

当社では水と環境、そして焼成事業を通した熱効率の追求をテーマに、
地球に、人にやさしい環境の実現に取り組んでまいりました。

常にクリーンな地球を念頭に成長を続ける当社に対し、
”次のテーマは？”とご質問をいただくたびに、次の社会が求める製品への開発意欲は増す一方。

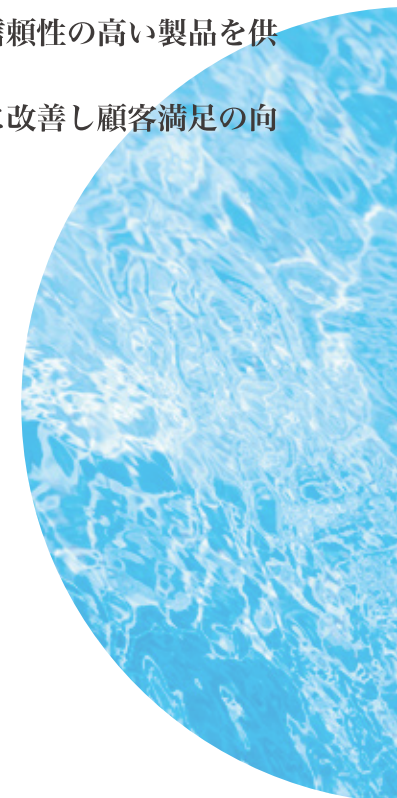
永年培ってきたモノを見る確かな目、情報の収集力、そして的確な判断力を武器に、
今後もさらなる幸せの実現に向かって進んでいく所存であります。

21世紀という新しいフィールドに焦点を合わせ、
すぐれた製品の提供で広く社会に貢献できることを願ってやみません。

会社方針 Philosophy

朝日汙過材株式会社は「事業活動の基本は、人と地球へのやさしさ」という経営
理念の下、豊かな自然に恵まれた岐阜の風土を後世にわたって残すため、当社の事
業活動で、地域社会及び地球環境に与える影響が、人類共通の重要問題のひとつ
であると認識し、継続的に改善しながら環境汚染の予防及び環境保護を積極的に
推進し、地球環境の保全に貢献するため努力します。

関連する法規制を順守しながらも、顧客第一主義に目指し信頼性の高い製品を供
給する為に、常にマネジメントシステムの有効性を継続的に改善し顧客満足の向
上を目指します。



事業内容 Business

活性炭製造販売(粒状・粉末炭)
活性炭の再生加工
化学工業薬品販売及び濾材販売
活性炭・濾材抜出充填工事一式
各種焼成等受託業務



会社概要 Company

商号 朝日汙過材株式会社
所在地 〒509-5111 岐阜県土岐市肥田浅野双葉町1-1-1
TEL: 0572-53-0201(代)
FAX: 0572-55-4700

創業 1973年5月10日

資本金 6,500万円

決算期 年1回4月

役員
代表取締役社長 肥田 祐輔
専務取締役 肥田 礼至
常務取締役 徳丸 靖彦
磯谷 浩始
萩野 博久
白村 勤
中根 貴楠

取引銀行
十六銀行 土岐支店
大垣共立銀行 土岐支店
岐阜信用金庫 多治見支店
名古屋銀行 多治見支店
商工中金 岐阜支店
三菱 UFJ銀行 多治見支店

事業所
営業本部 〒509-5111 岐阜県土岐市肥田浅野双葉町1-1-1
TEL 0572-53-0201 FAX 0572-55-4700
品質管理部 〒509-5115 岐阜県土岐市肥田町肥田2990-1
TEL 0572-53-0203 TEL 0572-55-1383
御嵩工場 〒505-0116 岐阜県可児郡御嵩町御嵩字南山2188-51
TEL 0574-67-0101 FAX 0574-68-0250
物流センター 〒509-5115 岐阜県土岐市肥田町肥田2991
笠原工場 〒507-0901 岐阜県多治見市笠原町森下1647-504
TEL 0572-43-2150 FAX 0572-43-2296
肥田工場 〒509-5115 岐阜県土岐市肥田町肥田2991
TEL 0572-55-6080 FAX 0572-53-0200

沿革 History

1973年 5月 朝日匣鉢鉅業所より分離独立 土岐市泉町久尻25-7に於いて創立
1975年 3月 濾過材製造より粒状活性炭再生加工に転換
1984年 4月 朝日タイル工業有限会社を吸収合併
1987年 4月 資本金1,500万円に増資
1990年 9月 強化プラスチック製造を第二製造部として開始(肥田工場)
1991年 11月 活性炭再生工場新築(肥田工場)
1991年 11月 フレコン収納自動倉庫管理開始(肥田工場)
1991年 11月 強化プラスチック製造部を瑞浪工場移転
1992年 4月 資本金2,500万円に増資
1996年 7月 本社所在地を肥田浅野双葉町に移転並びに新社屋完成
1996年 8月 笠原工場を第三製造部として開設
1998年 1月 品質管理部を肥田町肥田2990-1に移転並びに新築
1998年 6月 粉末活性炭製造開始(肥田工場)
1998年 12月 日本エンジ(株)より「活性炭ゼオコール」の商標及び製造、販売を譲受け業務開始
2000年 2月 ISO9001認証取得
2000年 3月 グリーンテクノみたけ工業団地の土地取得
2000年 11月 御嵩倉庫完成
2003年 9月 資本金5,000万円に増資
2005年 4月 社団法人 日本水道協会 水道用薬品等 水道用粉末活性炭認証取得
2005年 11月 資本金6,500万円に増資
2006年 1月 ISO14001認証取得(笠原工場)
2007年 12月 再生事業のみグリーンテクノみたけ工業団地に移転、新工場完成
2007年 12月 食品添加物製造業(粒状活性炭) 許可取得(御嵩工場)
2008年 3月 御嵩工場稼働開始
2009年 10月 強化プラスチック事業を(株)エムトラストに営業譲渡
2009年 10月 活性炭倉庫及びローリー充てん場開設(瑞浪工場)
2010年 7月 マルチ雰囲気炉(1,600℃) 導入(肥田工場)
2011年 6月 粉末炭製造工場完成(御嵩工場)
2011年 7月 肥田工場を物流センターに名称変更
2013年 2月 ローリー充てん場及び活性炭倉庫業務を物流センターに一元化する為に、瑞浪工場閉鎖
2013年 3月 ローリー充てん場を瑞浪から肥田に移転(物流センター)
2013年 8月 太陽光発電設置(御嵩工場)
2014年 9月 食品添加物製造業(粉末活性炭) 許可取得(御嵩工場)
2016年 12月 太陽光発電設置(本社ビル屋上、肥田、日吉)
2018年 1月 焼成事業部 MTK炉工場建屋を新築(肥田工場)
2018年 7月 粉末炭製造工場増築(御嵩工場)
2019年 2月 ISO14001認証を拡大取得(肥田工場)
2019年 3月 活性炭再生工場増築(御嵩工場)

●活性炭事業（新炭販売・再生関連業務）

暮らしに産業に、ゼオコールシリーズが豊かな未来を創造します。

実績と経験をベースに、
新たな可能性を追求。

【ゼオコール®の意味は、吸着する炭】

ゼオコール M、PG、GC、MCは石炭から作られた活性炭です。
ゼオコール YM、YLはヤシ殻から作られた活性炭です。特殊ガス吸着用活性炭も取り揃えております。

【ARK式活性炭再生システム】

当社の活性炭再生法は、一般に使用されているロータリーキルンと異なり、特殊構造になっており、温度などの再生条件の制御が容易であるため常にコントロールが可能で、そのため効率の良い再生が可能です。

尚、空気が遮断された賦活焼成炉は、活性炭の消耗も少なく、高収率、高性能を得ることが出来ます。また、当社での再生時に発生する排ガスを処理する設備を完備しておりますので、2次公害の心配なしです。

ゼオコールは従来にない合理的方法で生産されるので、良質の活性炭を廉価に供給することができます。

高品質な朝日汚過材の活性炭は、家庭用脱臭剤、産業排水の浄化、上水道のカビ臭除去などの主要分野に実績を持ち、脱色精製、溶剤回収などの工業用途や、各種ガス分離精製でも評価され需要が拡大しております。

【品質管理】

新炭、再生炭、使用済活性炭の性能試験を行い、プロセス全体の機能を正しく診断しあらゆる問題に対応できるスタッフが皆様への技術サービスを行っています。

【活性炭・濾材取替工事】

活性炭等の取替えに対応する設備を完備しております。
コラム等からの自走型吸引車。



広範囲・多目的にリサイクル。

●受託加工（焼成、その他）

最新設備と高度な技術で、あらゆる焼生物にチャレンジ。

特殊な性質を持つそれぞれの焼成物質。当社では大手企業各社から求められるすべての物質の性格を一つひとつ的確に把握し、その物質に最適の焼成方法で高品質な製品を提供しています。
ファインセラミックス、金属酸化物、各種窯業成型品等、様々な製品分野で当社独自の焼成技術と最新鋭設備が活かされています。
その他受託加工についてもご相談ください。

ファイン
セラミックス
（原料各種）

ソフト
フェライト等
金属酸化物

各種窯業
成型品

【主な焼成実績】

【トンネルキルン焼成システム】

受入

台車積載

予熱帯

焼成帯

冷却帯

袋詰

倉庫

出荷



トンネルキルン

台車寸法	1290×1,540×630H
全長	47,000mm
収容台車数	29台車
設定最高温度	1,300℃
バーナー	22基

他 全長 34.5M、19.5M 各1基



シャトルキルン 0.4m³

台車寸法	720×800×700H
収容台車数	1台車
設定最高温度	1,300℃
バーナー	8基

他 4m³シャトルキルン 1基



マルチ炉

炉内寸法	600×600×600H (ヒーター左右側面に設置)
設定温度	常用 :1,500℃ MAX:1,600℃
炉内雰囲気	Air、N ₂ 、真空

【キルンの概要】